

ごあいさつ



社団法人 日本WHO協会
理事長 関 淳一

去る9月に開催された国連総会に於て、心血管系疾患、脳卒中、糖尿病、慢性呼吸器疾患等の「非感染性疾患（NCDs）対策」をテーマとするハイレベル会合が開催されました。19、20日の2日間に亘って行われたハイレベル会合では政治宣言が採択され、この宣言は第66回国連総会としても正式に採択されました。この事は当協会のホームページ上にも掲載されています。

国連として、今後NCDs対策、日本で言えば生活習慣病対策に正面から、真剣に取り組む姿勢を明らかにしたものです。つまり、これらの慢性的非感染性疾患が、国連の目ざす世界の国々での経済・社会開発に今後重大な影響を及ぼすとともに、高所得国、中・低所得国共通のグローバルな課題であることを確認したものです。

総会議長のまとめによる宣言文は、喫煙、有害な飲酒、不健康な食事、運動不足等のリスクファクターの確認なども含めて65の項目からなっています。今後、来年の第67回国連総会迄にWHOを中心に参加国が協力して、これをより具体的な指針に仕上げることも確認されました。

この様な動きと機を一にして、WHOは国別のこれらの疾患の実態についての報告書（NCDs Country Profile 2011）を発表しました。この報告書では、193の国毎に、心血管系病変、癌、糖尿病、慢性呼吸器疾患について、それぞれの年間の死亡者数やその内の60才未満での死亡者の率、喫煙、運動不足などの生活習慣上や高血圧・肥満・高血糖・高コレステロール血症等の身体的なリスクファクターを有する人の率等について分析しており、世界の各国が自国の現状を他の国と比較して見る材料の一つとなると思われます。

この様に、国連のハイレベル会合を一つの契機として、世界中の国々の医療・保健分野での関心が、いわゆる生活習慣病の予防と対策に向かっていることが読みとれます。

これは、わが国にとっても極めて重要な課題であり、真剣に取り組まねばならないと思います。

4月のモスクワでの会議、5月のWHO総会の流れを受けた、今回のハイレベル会合が、今後生活習慣病対策が世界の国々で、大きく前進するエポックとなる事をWHOは強く期待しています。

「目で見えるWHO」47号では、WHOストップ結核部の小野崎郁史先生に、今年の世界保健デーのテーマである薬剤耐性の問題について、非常に分かり易く解説していただくことができました。又、東日本大震災に関連して、ユニセフソマリア支援センターの國井修先生に、被災地で2ヶ月に亘り支援活動をされた経験から、今後に備える為の提言と御意見をいただきました。更に、4月7日の世界保健デーに合わせて日本医学会総会の展示会場で、中村安秀理事の御尽力のもと、ステージショーとして披露の予定でした「アフリカの健康・水・いのち」について、各々の担当の方々にその内容を紙上で御紹介いただきました。

大変、御多忙の中、御執筆いただきました方々に、改めて心から厚く御礼を申し上げます。

2011年10月